

2013年3月期 第1四半期 決算発表
主な質疑応答

(円高について)

Q: 現状、想定レートより、円高が進んでいますが、第1四半期の評価と見通し達成に向けた取り組みを教えてください。

A: 当第1四半期の営業利益は、18億円と円高環境ながら、前第4四半期に引き続いて、黒字を達成いたしました。

通期見通し達成に向けて、順調なスタートが切れたと評価しています。

現時点、期初見通しから、ユーロを中心に円高が進行していますが、次の取り組みによって、通期見通しの達成を目指してまいります。

- ① 販売好調な、CX-5 及び次期 Mazda6 の販売拡大と、車種ミックス、カントリーミックスの改善
- ② 更なるコスト改善
- ③ 生産効率アップの継続追及
- ④ 売り方革新による、販売費用抑制

(SKYACTIV 比率について)

Q: 今期の SKYACTIV 販売比率が、当初見込の 20%から 30%に拡大した理由を教えてください。

A: 日本のエコカー補助金による減税・免税を受けたデミオ、アクセラの拡販による SKYACTIV 比率の向上及び CX-5 の当初計画を上回る販売、US、カナダでの Mazda3 の比率が予定より増えていることに加え、グローバルでの CX-5 効果が SKYACTIV 比率の拡大に大きく貢献いたしました。

(新興国事業について)

Q: 新興国事業の進捗を教えてください。

A: 構造改革プランの施策の一つである新興国事業の強化も着実に進展しております。

まず、マレーシアではベルマツ社と合弁生産・販売会社の設立に向けた協議を開始しております。この新しい合弁会社のもと、現在現地組立を行っている Mazda3 に加え、2013 年前半から CX-5 の現地組立を開始する予定です。

また、ロシアでは今秋の生産開始に向けて、ソラーズ社と合弁会社設立の契約を締結し、メキシコでは 2014 年 3 月期第 4 四半期の操業開始に向けて、工場建設の準備を順調に進めております。2013 年 3 月期中には土地の整備と建屋の完成を目指しています。

メキシコ・ブラジル二国間協定の改定及びブラジル新自動車政策による影響については、長期的には大きな影響はないものと考えております。ブラジルへの参入についてもあらゆる可能性について鋭意検討を行い、最適な市場参入戦略を追求していきたいと考えております。

###